

会場のご案内



消化器疾患の患者さまの笑顔。
そんな、いい絵を描きたい。

消化器疾患で苦しむ人たちの
幸せに生きたい。自分らしくありたい。
その思いにしっかり応える私たちでありたい。
EAファーマは、
そんな未来の実現に向けて進んでいきます。



EAファーマは、消化器のスペシャリティ・ファーマです。

EAファーマは、エーザイグループの消化器事業と
味の素グループの消化器事業を統合・設立した製薬会社です。

EAファーマ株式会社
東京都中央区入船二丁目1番1号
<http://www.eapharma.co.jp/>



「第19回臨床消化器病研究会」開催のお知らせ
肝胆膵の部 症例募集のお知らせ

肝胆膵の部 [3セッション]

8:50~10:40

主題1 肝:「肝細胞腺腫」

司会: 佐野 圭二 先生(帝京大学医学部 外科学講座)
中島 収 先生(久留米大学病院 臨床検査部)
画像コメンター: 角谷 眞澄 先生(信州大学医学部 画像医学教室)
基調講演: 米田 憲秀 先生(金沢大学病院 放射線科)

10:50~12:40

主題2 胆:「異時性胆管癌」

司会: 榑野 正人 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学)
糸井 隆夫 先生(東京医科大学 消化器内科学分野)
病理コメンター: 全 陽 先生(神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 病理診断学分野)
基調講演: 江畑 智希 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学)

13:55~15:45

主題3 膵:「慢性膵炎の長期経過(5年以上)中に発生した膵癌」

司会: 植木 敏晴 先生(福岡大学筑紫病院 消化器内科)
清水 泰博 先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器外科)
病理コメンター: 福嶋 敬宜 先生(自治医科大学附属病院 病理診断科)
画像コメンター: 廣橋 伸治 先生(大阪明鏡病院 放射線科)
基調講演: 入澤 篤志 先生(福島県立医科大学会津医療センター 消化器内科学講座)

消化管の部 [4セッション]

8:50~10:20

「炎症性腸疾患」

テーマ: 症例から学ぶ腸の炎症性疾患 Season 2

10:30~12:00

「消化管癌(形態学): 上部消化管」

テーマ: *H. pylori*未感染胃の限局性病変

12:10~13:00

「機能」

テーマ: 日常診療に役立つ機能性疾患

14:15~15:45

「消化管癌(形態学): 下部消化管」

テーマ: 小腸・大腸腫瘍性病変の鑑別と診断

※消化管の部詳細は2018年4月頃、完成を予定しております。 ※上記時間配分は予定となります。

2018年7月28日(土) 8:45~16:00(予定)

ベルサール高田馬場 B2F「ホールA+B」
ホールA「消化管の部」、ホールB「肝胆膵の部」

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-8-2 住友不動産新宿ガーデンタワー TEL 03-3208-0880(代表)

参加資格 オープン

会場費 3,000円

共催: 臨床消化器病研究会

〈事務局〉「消化管の部」岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野
「肝胆膵の部」手稲溪仁会病院 消化器病センター

EAファーマ株式会社 担当: 芦田 大輔 / 古屋 浩

臨床消化器病研究会HP <http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>

第19回臨床消化器病研究会 「肝胆膵の部・演題募集」について

肝胆膵の部では、各主題で検討する症例を公募いたします。

肝胆膵の部 主題症例募集

「主題のねらい」に即した症例があれば、「症例申込表」・「画像・病理データ」をCDに保存の上、事務局宛にお送りください。

※「症例申込表」は、臨床消化器病研究会ホームページ (<http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>) より入手できます。

締め切り: 2018年5月18日(金) “消印有効”

送付先: 臨床消化器病研究会(肝胆膵)事務局
手稲溪仁会病院 消化器病センター 宛
〒006-8555 北海道札幌市手稲区前田1条12丁目1-40
TEL: 011-681-8111(内2050) FAX: 011-685-2967
e-mail: tkgc@tb3.so-net.ne.jp

※本研究会では、各セッションの様態をDVDに収録し、研究会終了後に希望者に貸出します。応募にあたっては、予めご承知おきください。

注意事項

1)「抄録」

※「臨床消化器病研究会 症例申込表」を使用し、以下の項目を必ずご記入願います。

- 応募する「領域」「主題」
- 演題名、所属、氏名
- 症例の要旨(400文字以内)
- 症例申込表とともに送りいただく資料の種類、枚数(資料別)

2)「画像・病理データ」

※パワーポイントで作成し、以下の画像・病理データをご提出願います。

- 画像所見(X線所見、内視鏡所見など)
- 切除標本所見(マクロ)
- 病理組織所見(ミクロ)
- その他、症例検討に必要な資料

※**病理標本現物(プレパラート)は、送付しないでください。**

3)「症例申込表」、「画像・病理データ」は、CDに保存の上、ご提出願います。

主題 1 肝: 「肝細胞腺腫」

司 会: 佐野 圭二 先生(帝京大学医学部 外科学講座)
中島 収 先生(久留米大学病院 臨床検査部)

画像コメンテーター: 角谷 眞澄 先生(信州大学医学部 画像医学教室)

基調講演: 米田 憲秀 先生(金沢大学病院 放射線科)

以前より肝細胞腺腫は肝細胞由来の良性肝腫瘍であり、経口避妊薬との服用を疑うべき若年女性の正常肝に発生する多血性腫瘍で、肝細胞癌との鑑別を要するものとして知られていた。それが2010年消化器系腫瘍のWHO分類改訂に伴い、肝細胞腺腫は免疫組織化学的診断により①HNF1 α 不活化型 ② β -catenin活性化型 ③炎症型 ④分類不能型の4つの亜型に分類されるようになり、また近年NASH・アルコール性肝硬変・肝内血流異常などとの関与も示唆され、他の良性肝結節との鑑別診断が再議論されるようになってきた。臨床的にも出血や癌化をきたした症例などが報告され、肝細胞腺腫と診断したうえで治療対象とした症例も経験するようになった。今回、肝細胞腺腫と診断された症例を多数ご応募いただき、それらをまとめて画像的・病理学的に再検討することにより、最新の肝細胞腺腫の診断と治療を再確認していただきたい。

主題 2 胆: 「異時性胆管癌」

司 会: 柳野 正人 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学)
糸井 隆夫 先生(東京医科大学 消化器内科学分野)

画像コメンテーター: 全 陽 先生(神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 病理診断学分野)

基調講演: 江畑 智希 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学)

胆管癌切除後の予後が向上するにつれ、残存した胆管に新たに発生する“異時性胆管癌”が注目されている。具体的には、1)肝門部領域胆管癌切除後の遠位胆管癌、2)遠位胆管癌切除後の肝門部あるいは肝内胆管癌ということになる。前者では、肝外胆管切除再建を伴う肝切除後の膵頭十二指腸切除が、後者では膵頭十二指腸切除後の肝切除が必要であり、いずれも高度な癒着のため高難度な手術が必要となる。今回は、1) 或いは2)の病態(勿論、胆管断端陽性による再発例は含まない)で両方の病変が外科的に切除され、病理学的に詳細な検討が可能な症例を提示いただき、主に“field cancerization”の概念を念頭に発癌について論じたい。可能であれば、各種免疫染色(MUC-1, -2, -5AC, -6, HGM, CDX2, P53等)やmolecularな解析(KRAS, NRAS等)が行われていることが望ましい。多くの施設から症例の応募を期待する。

主題 3 膵: 「慢性膵炎の長期経過(5年以上)中に発生した膵癌」

司 会: 植木 敏晴 先生(福岡大学筑紫病院 消化器内科)
清水 泰博 先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器外科)

病理コメンテーター: 福嶋 敬宜 先生(自治医科大学附属病院 病理診断科)

画像コメンテーター: 廣橋 伸治 先生(大阪明館病院 放射線科)

基調講演: 入澤 篤志 先生(福島県立医科大学会津医療センター 消化器内科学講座)

慢性膵炎は、一般人口に比し、膵癌のリスクが13.3倍、慢性膵炎診断後2年以上の経過例では5.8倍である。さらに遺伝性膵炎では69倍とされている。慢性膵炎に膵癌発生率が高い背景には、飲酒や喫煙などの生活習慣や合併する糖尿病などの影響が指摘されているが、明確なエビデンスはない。慢性膵炎による膵石灰化、膵萎縮、主膵管拡張などは膵癌の早期発見を困難にしており、全国調査では慢性膵炎合併膵癌の切除率は32%と低率で、特に膵石合併例では8%である。そこで、慢性膵炎を5年以上経過観察中に発見された膵癌と経過中の慢性膵炎の画像の特徴と、臨床像を明らかにし、膵癌の早期発見に役立てたい。膵癌の診断は切除例や剖検例に限らず、EUS-FNAなどの生検で病理学的に診断された症例も歓迎する。多くの施設から多数の応募を期待する。